

# 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語／学校設定科目「現代文B演習β」】

## 1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

学校設定科目「現代文B演習β」は、科目「現代文B」を発展的に学習する科目として開設されている。上級学校への進学を希望する生徒が主に選択している。読解に関しては積極的に取り組む生徒が多いが、自分の考えを表現することには消極的である。

## 2. 単元名「書き手の意図や描写されたことを的確にとらえ、表現を味わう。」（全9時間）

教材：小説「葉桜と魔笛」太宰治（『新編現代文B』東京書籍）

## 3. 単元目標

- ・目的や課題に応じて、自分の考えや情報を整理し、自分の表現に役立てている。  
(関心・意欲・態度)
- ・目的や課題に応じて、自分の考えや情報を整理し、自分の表現に役立てる。  
(書く能力)（「現代文B」指導事項エ）
- ・語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現の特色をとらえる。  
(知識・理解)（「現代文B」指導事項オ）

## 4. 本時の目標 書き手の文体の特徴と特色について考察する。

## 5. 授業展開

### 解決したい課題や問い

自分と異なる性別の一人称文体で書くと、どんなことが経験できるのか？

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
自分とは異なる性別の一人称一人語りという文体で書いた創作作品（400字程度）	創作作品への自己評価及び他者評価表（A4判）	ワークシート「自分とは異なる性別になって創作してみて～人間と表現についての考察～」(A4判)
<b>想定される活動</b>	<b>想定される活動</b>	<b>想定される活動</b>
創作活動全般を振り返り、どのような気持ちで書き進めていたかを確認する。	創作作品に対する他者の評価を参考にしつつ、今回の表現活動が自分にとってどのような経験であったかを振り返る。	自分と異なる性別で書くという表現活動の良かった点をまとめ、表現することの楽しさと豊かさを理解する。
ジグソー活動は行わず、全員が同じ資料を使って考えを深めていくこととする。		

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

学習活動の流れ

#### 第1次（5時間）

- ・小説を通読する。 【一斉】
  - ・小説の概要をつかむ。 【個人】 ★思考
  - ・読解のためのワークシートの問いに解答する。 【個人】 ★思考
- 【グループ活動】 ★対話

#### 第2次（2時間）

- ・教材が男性作家による女性一人称文体であることを確認する。 【グループ活動】 ★対話
- ・自分とは異なる性別の一人称一人語り文体で創作する。 【個人】 ★思考
- ・創作後に活動を振り返って自己評価する。 【個人】 ★思考

#### 第3次（2時間）

- ・作品を小グループ（4人）内で回し読みして評価し合う。 【グループ活動】 ★対話
  - ・創作活動の良かった点、良くなかった点をワークシートにまとめる。 【個人】 ★思考
  - ・ワークシートに記した内容をグループ内で発表してまとめる。 【グループ活動】 ★対話
- ★思考の深まり
- ・活動全体を振り返り、ワークシートに感想を記す。 【個人】 ★思考

**学習の成果（予想される生徒のあらわれ）**

- ・自分とは異なる性別の一人称文体で文章を書くという稀な体験を通して、創作の楽しみを理解する。
- ・グループ活動を通じて、自分と異なる性別の一人称文体で書くことに違和感のない者と違和感を持つ者がいることを知り、多様なものの感じ方があることを確認する。
- ・自分とは異なる性別の一人称文体で書くことで、新鮮な気持ちで書くことができ、表現することの楽しさを理解する。
- ・自分とは異なる性別の一人称文体で書くことで、自分とは異なる視点が想像でき、表現の幅を広げることができることを理解する。

**予想される生徒のあらわれに関する育成すべき資質・能力三つの柱からの分析**

		単元目標との相関
①知識・技能	(知識・理解)	○小説「葉桜と魔笛」が男性作家による女性一人称文体で書かれた作品であることから、作家 太宰治の好んだ方法であることを理解している。 ○創作体験を通して、表現する楽しみを味わい、表現の豊かさについて理解している。
②思考力・判断力・表現力	(書く能力)	○太宰治の好んで使った方法に倣い、その表現上の特色をとらえて、自分とは異なる性別の一人称文体で創作し表現している。
③主体性・学びに向かう力 協働性・人間性 など	(関心・意欲・態度)	○小説「葉桜と魔笛」の意外なストーリー展開に触れ、小説を読む楽しみを知っている。 ○小説「葉桜と魔笛」以外の太宰治の作品を読もうとしている。

## 授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	（女子生徒）異性になりきって書くことは無理だと考えた。恥ずかしくて書けないし、異性の感情をどう表現したらいいか分からない。作家や漫画家はとても大変な作業をしていることが分かった。	なかなかできない経験をして、人間（他者）の感情について、いつもより真剣に考えて書くことができた。新しい視点に立ってものを考えることができた。
Bさん	（男子生徒）おもしろそうだったと思った。いつもの自分とは違う、新鮮な目線で書くことができそう。いろいろなことが想像できそう。	女性の気持ちについて書いていると、女性に対するイメージが広がった。しかし、それはあくまで自分が個人的に抱くイメージであって、それが真実だと思っはいけない。自分が書いたものを読んだ女性に、自分の文章が共感されなかった。
Cさん	（女子生徒）異性のものの感じ方が、自分が考えるようなものなのか自信がない。人間が抱く感情やイメージは、同じものに触れても、男性と女性とでは異なるものになるかもしれないから。	自分と異なる性別になって、文章を考えることはとても良い経験になった。いつもの自分とは、少し違った考え方や感じ方を理解することにつながっていく。いつもの自分とは異なる視点で想像し、視野を広げることは有効なことだ。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定の仕方が難しかった。「太宰治はどういう気持ちで女性一人称文体で書いたのか？」という課題で実施した集団では、「女性と交際するために、その気持ちを知りたかった」という回答も出たので修正した。</li> <li>LGBT（性同一性障害）の生徒が在籍している可能性もあるので配慮が必要。</li> </ul>
考えるための材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考えるための材料B」は課題解決のためには有効ではなかった。</li> <li>太宰治が女性一人称文体で書いた作品として、教材の「葉桜と魔笛」以外に「待つ」を紹介したが、更に1～2作品を材料として与えてもよかったかもしれない。</li> </ul>
対話と思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ員（4人）が出す意見をまとめるのに苦労していたが、そのことで思考が深まっていく様子が見えた。</li> <li>ワールド・カフェによる話し合いによって、多様な感じ方や考え方があったことを確認することができた。</li> </ul>
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつもとは違って、新鮮で楽しく書けたという感想が多かった。</li> <li>自分とは異なる視点が想像でき、表現の幅の広がりにつながることを理解できたという生徒があった。</li> <li>文学表現の領域からはずれ、異性理解の助けになったという感想もあり、課題が残った。</li> </ul>